

令和5年度スーパーサイエンスハイスクール事業 理数セミナーのお知らせ

改めて持続可能性とは何かを考える ～これからの人間と自然との向き合い方～

日時 | 令和5年4月22日(土)

午後2時から午後4時まで

会場 | 本校1階多目的ホール (予定)

対象 | 高校生・中学生

講師 | 京都大学特任教授・武蔵野大学名誉教授
一方井 誠治 先生(富士高卒業生)



講演概要

近年、「持続可能な社会」とか「SDGs (国連持続可能な発展目標)」という言葉をよく見かけるようになりました。そのこと自体は、今後の社会を考える上で望ましい事なのですが、この「持続可能性」の概念については、実際的にも学問的にもかなり幅広い概念であり、具体的な一つの概念として明確に定義されたものではありません。したがって、現状ではそれぞれの人々が別々のイメージのもとにこの言葉を使っているというのが実態です。本講義では、「持続可能性」の概念について、環境経済学の観点から「強い持続可能性」「弱い持続可能性」について理論的な解説を行うとともに、その理論も取り入れつつ実際の政策を行っているドイツの事例などをとりあげ、今後、日本が進むべき方向をご参加の皆様方とともに改めて考える機会にしたいと思います。

講師紹介

1951年東京生まれ。都立富士高等学校、東京大学経済学部を経て環境庁(現環境省)に入り、外務省在米日本大使館一等書記官、環境庁環境計画課長、同地球環境部企画課長、環境省政策評価広報課長、財務省神戸税関長等を経て2005年に京都大学経済研究所教授。2012年武蔵野大学教授・京都大学特任教授。2022年武蔵野大学を定年退職し、現在、京都大学特任教授、武蔵野大学名誉教授。経済研究所での研究をまとめた「低炭素化時代の日本の選択」(単著、岩波書店、2008年)で京都大学博士。その他の著書として、「国民のためのエネルギー原論」(共著、日本経済新聞出版社、2011年)、コアテキスト環境経済学」(単著、新世社、2018年)などがある。



お問い合わせ：探究・SSH部 TEL 03-3382-0601